

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達サポートセンターはるmore		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 3日		2026年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 3日		2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○訪問先施設評価実施期間	年 月 日		年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2施設	(回答数) 1施設
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・当事業所と併用してご利用いただくことで、サービスにもつなげることができる。	・併用先の事業所(保育所・学校・児発・放デイ等)と、子どもの様子や支援のポイントを定期的に共有し、支援が途切れないようにしている ・子どもの得意な活動や安心できる関わり方を、併用先でも活かせるよう助言している。併用によって子どもの成長がより促されるよう、家庭での関わり方も含めて総合的に共有している	子どもの変化に応じて支援方法を定期的に見直し、より個別性の高い支援が共有できるよう取り組む。
2	・定期的に、保護者様へ面談の機会を設け、悩みに対するご相談や支援に対するご要望をお受けしている。また保護者様に対して丁寧な説明がなされている。	・面談では、保護者の気持ちや困りごとを丁寧に受け止め、必要に応じて支援方針の見直しや調整を行っている。 ・定期的に面談の機会を設け、保護者が気軽に相談できる関係を維持している。 ・保護者が抱える不安や悩みを否定せず、気持ちに寄り添いながら現実的な解決策を提案している。	・保護者の相談内容に応じて、面談の頻度や方法(対面・オンライン等)を柔軟に選べる体制を整えていく。 ・保護者が他のサービスや保育所と連携しやすいよう、必要な情報を整理し、共有方法をよりわかりやすく改善していく。 ・子どもの成長や変化をより客観的に伝えられるよう、記録の書き方や評価方法の見直しを進める。
3	・子どもの成功体験を大切に、安心して取り組める環境づくりを支援している。	・保育所などや家庭でも同じ成功体験が積み重ねられるよう、関わり方や工夫を共有している。 ・子どもの得意な場面や安心できる関わり方を、他機関でも実践しやすい形で伝えている。 ・小さな成長も保護者と共有し、家庭での安心感や自信につながるよう丁寧に説明している。	・子どもの成功しやすい関わり方を、保育所や家庭でも共有しやすい形に整理し、連携の質を高めていく。 ・保護者や保育士からのフィードバックを取り入れ、環境調整や支援方法をより実践的なものへ改善していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・関係機関への訪問頻度が十分とは言えず、情報共有や連携をより強化していく必要がある	・保護者様より訪問のご要望をいただいているが、日程調整や人員配置の課題から、希望通りの訪問対応が難しい状況があった	・専門職の採用や育成に向けた体制づくり、働きやすい勤務環境の整備、業務分担の見直しなど、職員が継続して働ける仕組みを構築することが必要である。 ・訪問支援に伴う移動や調整業務の効率化を図り、限られた人員でも無理なく支援を提供できる運営方法を検討することも重要である。
2	・職員不足による職員体制が整わない	・保護者からのニーズが高く、訪問支援の必要性も十分に理解しているが、職員不足により安定した職員体制を整えることができなかった。 ・当事業所では、保護者からのニーズが高く、訪問支援の必要性を十分に理解していたものの、専門性を持つ職員の確保が難しく、安定した職員体制を整えることが課題となっていた。新規職員の育成には時間と支援体制が必要であり、既存職員の負担が大きくなっていったことも、継続的な運営を困難にする要因であった。	・地域の関係機関との連携を強化し、利用者が必要な支援につながりやすい環境を整えることも課題である。今回、職員体制の改善が見込めない状況が続いたため閉所という判断に至ったが、今後は利用者への影響を最小限にするための情報共有や引き継ぎ体制の整備、事業運営の在り方の検討が必要であると考えている。